

社会民主主義 フォーラム

全国 通信

No. 49

2023年
8月4日

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-6-9

DIK麹町ビル704号室

TEL : 03-6272-8135

FAX : 03-6272-8136

Mail : forum-cho@iaa.itkeeper.ne.jp

復帰51年目の沖縄の現状と課題

辺野古への基地建設や南西諸島への自衛隊配備が続く中、「復帰51年目の沖縄の現状と課題」と題して沖縄平和運動センターの岸本喬（きしもと・たかし）事務局長にお話を伺いました（文責は編集者）。

50年前と何も変わらない沖縄



今年の5月15日に与那国島で防衛庁がミサイル配備の説明会を開きました。許せないのは復帰51年目となる5月15

日に説明会をやるといふ国の姿勢です。沖縄を何だと思ってるのかと信じられない思いでした。写真の右側が、復帰の年、1972年の琉球新報の紙面です。左側が去年の復帰50年目の紙面で特別編集したものです。琉球新報の編集長は「タイトルは変えられない」と言っています。沖縄は何も変わっていない、それどころかますます厳しくなっています。サブタイトルが、復帰時の「いま、祖国に帰る」が、50年たって「今、日本に問う」ということです。深刻な問題提起です。

日本の国土面積0.6パーセントの沖縄に米軍専用施設の約70パーセントが今なお存在しています。フェンスの基地だけではなく、目に見えない訓練空域や海域があり、主権国家でありながら米軍によって支配されているという状況は今も変わりません。昨年発表された県警のデータでは50年間で在沖縄米軍人の刑法犯罪の摘発件数が6018人にもなります。そのうちの10パーセントを超える757人が殺人罪などの凶悪犯罪だったということも明らかになっています。

辺野古のたたかひの現状

最初に辺野古についてです。当初は水深30メートルの大浦湾側（右写真右側）から埋め立てを始める予定でした。しかし軟弱地盤が見つかって、比較的浅瀬の辺野古側から行われ、防衛省によれば全体の15%まで

進んでいる状況です。辺野古側は4月末までで94%の埋め立てが終わり、若干遅れはありますが9月には終わると思います。それでもあきらめずに座り込みは続けていきます。

問題は軟弱地盤が現れた大浦湾側です。当初の設計図面は成り立たなくなり、3500億円の見積もりが2019年には9300億円に約3倍に膨れました。国は平気でこういう数字を出してきます。しかも細かく見ると、警備のために1700億円も使っています（1日に換算すると2000万円）。湯水のように警備に金を使い、まさに狂気としか言いようのない工事だと言えます。

埋め立てに必要な土砂は石垣や宮古、宮城や伊江島から集める計画で、しかし足りないので、奄美大島や五島列島からとも言われています。そして糸満や八重山など、まだ遺骨がある場所からも運ぼうとしており大問題になっています。土砂の総量は、沖縄県庁の建物70個分と言われています。

普天間飛行場代管施設の埋立工事の進捗状況について

辺野古側の埋立工事については、本年4月末時点で、約299万立方メートル投入済で、これは、
・**辺野古側**の進捗率 **約9.4%** (約299万㎡/約319万㎡)
・**事業全体**の進捗率 **約1.5%** (約299万㎡/約2,020万㎡)に該当する。



地位協定の問題—米軍優先協定—

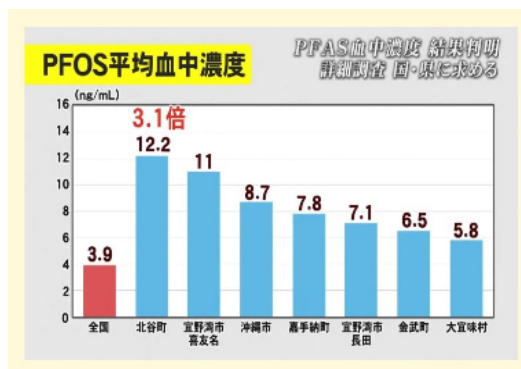
次に日米地位協定の問題、特に第4条です。内容は米軍は返還した土地を原状回復する義務を負わないし、日本側はその費用を米側に求めないというもので、米軍優先協定そのものです。国頭村、東村、大宜味村という三つの村にまたがる演習場があり、国頭村側の演習場がほぼ返還されました。そして非常に政治的ですが世界自然遺産にしたという経過があります。

ところがこのエリアでチョウの研究や保護活動をし

ている宮城さんという方おられます。この方がチョウを求めて返還地に入ったらゴミだらけだったんです。米軍は原状回復しないし日本政府もやっていなかったのです。それどころか実弾なども出てきた。ドラム缶もたくさん出てきて、地元の大学の環境学の先生が調べたら有害物質のPCBが入っていたということです。

宮城さんは森から拾ってきたものを、米軍演習場のゲート前に置いて、おかしいじゃないかと抗議しました。まったく孤軍奮闘ですごい人です。すると、沖縄県警だってやりたくなかったことなんです。国に言われて、宮城さんの家宅捜査に入りました。どっちがおかしいのかということです。

汚染により高まる健康への不安



関連して米軍基地の汚染の問題です。2016年にPFASの汚染が県内で報じられました。嘉手納基地のある北谷町の浄水場から

中部・那覇、南部の地域へ水を供給するわけですが、この北谷浄水場でPFASの高い値が検出されたことが2016年です。一体どこから流れてきたのかと手繰っていったら、普天間基地や嘉手納基地でした。国が何も保障しないので、沖縄県が70億かけて活性炭を改良するなど対策をしました。PFASは有機フッ素化合物の総称で、沖縄では米軍の泡消火剤に使われていました。それを訓練で使ってそのまま放置です。

周辺自治体は相次いで「この水は飲めません」と立札を立てました。琉球王国時代から400年もの間、地域の人たちが使ってきた水です。嘉手納基地周辺では国基準の36倍もあったという調査結果も出てきています。アメリカの大学と疾病予防センターの合同調査では、がんの発生率が通常よりも高くなっていると報告されています。横田や横須賀基地でも出ました。当の

アメリカでは環境保護法のため使えないのですが、在日米軍基地ではやりたい放題ということです。

ミサイル配備と国民保護の現実

台湾有事が叫ばれミサイル配備も進められています。国民保護法に基づいて各都道府県や自治体がそれぞれ住民の避難計画を立てることになっています。宮古島や石垣島では、いったん島内に避難施設を造って、そこに住民を集めて、そこから空港または港から沖縄本島に避難することになります。そのために石垣島では飛行機が435機、宮古島では381機必要だと積算されています。そして石垣島で全島民6万人を非難させるためには、9.67日かかるという試算です。これだけでも机上の空論で、あり得ない避難計画です。

驚いたのがバカみたいな話ですが、5月31日、北朝鮮がミサイルを発射し日本政府は沖縄県民の全ての携帯電話にJアラートを出しました。自衛隊はPAC-3を配備しました。いったん配備したんです。しかし台風2号が来ることが分かったので、PAC-3は避難させてしまった。何度かこういうことがありました。結局、北朝鮮がミサイル発射したのに、PAC-3は台風で倉庫に避難させてしまったというバカみたいな話です。これで「本当に戦争できるのか」となります。これが現実です。ミサイルは何の役にも立ちません。

戦争起こすのも許さないのも人間

糸満市の平和祈念資料館にある文章を紹介します。

一戦争というものはこれほど残忍でこれほど汚辱にまみれたものはないと思うのです。この生々しい体験の前では、いかなる人でも戦争を肯定し美化することはできないはずです。戦争を起こすのは確かに人間です。しかし、それ以上に戦争を許さない努力のできるのも、私たち人間なのではないでしょうか。戦後この方、私たちがあらゆる戦争を憎み、平和な島を建設せねばと思い続けてきました。これがあまりにも大きな代償を払って得た、譲ることのできない私たちの心情なのです。一

ぜひ一緒に、基地のない沖縄、平和な日本、そして戦争のない世界をつくるため頑張りましょう。

自治体選挙の結果

東日本大震災で延期された被災3県での自治体選挙が始まりました。

7月9日に投開票された福島市議会議員選挙では、羽田ふさおさん（立憲・公・現5）、さわい和宏さん（立憲・公・現2）が当選しましたが、梅津かずまさん（無・現3）は及びませんでした。また同日の福島県・白河市議会議員選挙では、いしな国光さん（無・立憲推・現5）が当選しました。

7月30日に行われた仙台市議会議員選挙では、いずれも立憲公認のひぐちのりこさん（現3）、大

沼えつ子さん（新＝上）、いのまた由美さん（現1）、つじ隆一さん（現7）、石川けんじさん（現6）の5人が見事全員当選を果たしました。大沼さんは小山勇朗さんの議席を守りました。

そして同日の岩手県・久慈市議会議員選挙では、佐々木たかしさん（立憲・公・新＝下）が当選しました。佐々木さんは豊巻直子さんの後継です。

